

Q2

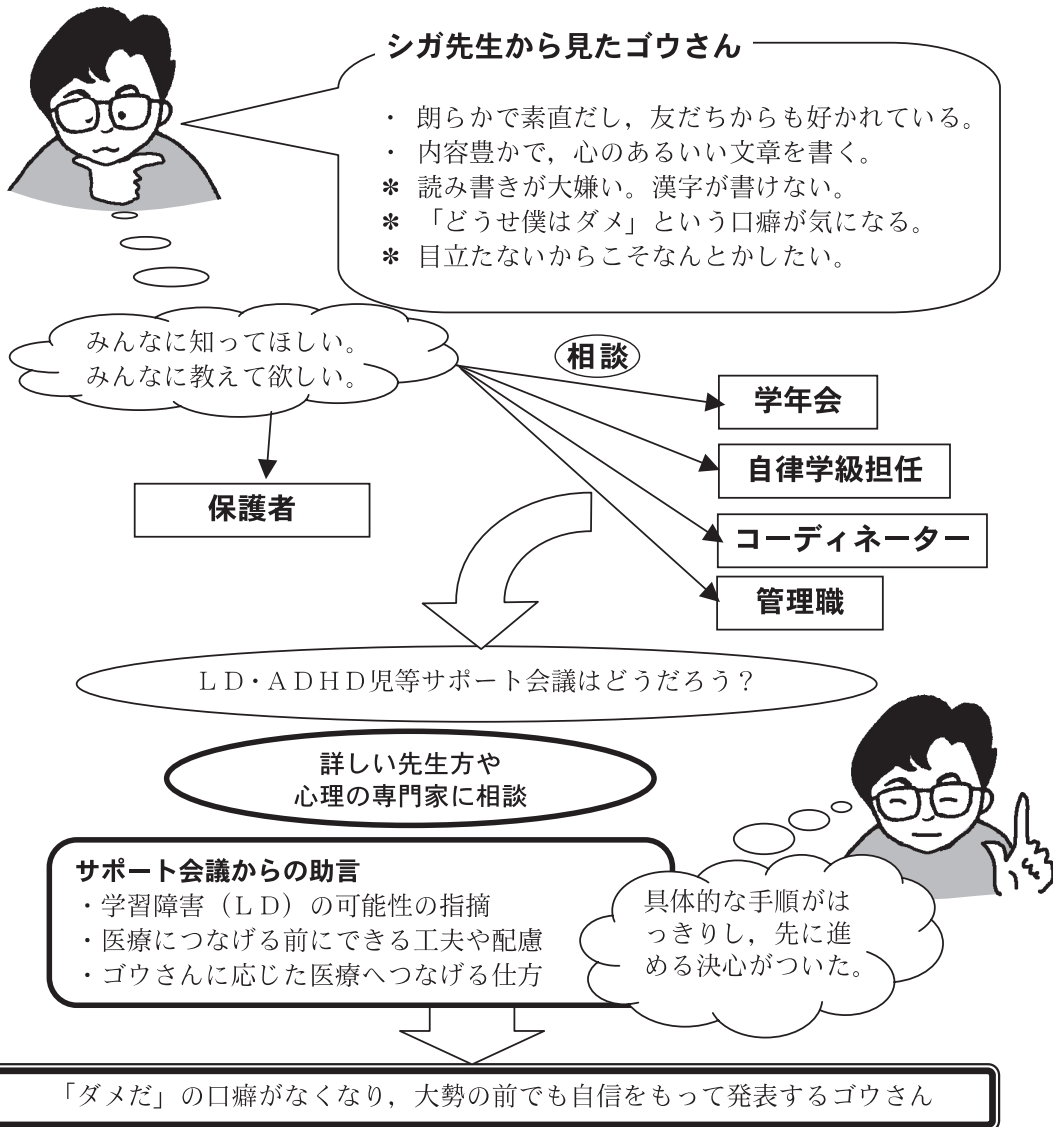
# 目立たないけれど、 実は困っている子への支援は？

まずは  
ここから



- ・気になることを書き出すようにします。
- ・多くの人にその子の様子を聞いてみます。
- ・専門家に相談することで、具体的な対処法も見つかります。

なぜそうなのか理由ははっきりしないけれど、ゴウさん（小5）が気になっているシガ先生の取り組みを紹介します。



**【キーポイント】** 行動面には問題がないものの、認知の偏りのために学習に取り組むことが困難な子どもは、行動面の困難さを抱える子どもよりも多い割合であると報告されていますが、障害が見えにくいことから、かえって、見過ごされることが多いものです。こんな子どもにも支援の工夫が求められます。

## ● どこか気になるゴウさん

小学校に入学したばかりの頃は、多少落ち着きがないところもあったゴウさんですが、高学年になると、「別人のようだ」と言われるほど落ち着きました。性格も朗らかで、しかも素直な面があるので、友だちからも好かれています。

それでも、担任のシガ先生は何となく気になってしかたありません。

理由ははっきりとしませんが、読み書きに関することは大嫌いで、学年相当の漢字はほとんどと言っていいほど書けないのです。しかも、他の教科では特別に問題になることはありません。日記の文章を読むと、長いものは書きませんが、内容が豊かで心を感じます。

そんなゴウさんが、国語の時間になると、「どうせ僕はダメ」と言って元気がなくなってしまう。最近では、社会科の教科書を読むようなときにも、「どうせ僕はだめ」と、口癖のように言っているのが気になってしかたがありません。

お母さんも、「すべてにつながるものだから、読み書きの力をつけてほしい」と話されていることもあって、なんとかしたいと思うのですが、いい方法が見あたりません。

## ● 学習障害（LD）は目立たない

2003年に実施された文部科学省の全国実態調査では、行動面には問題がないものの、認知の偏りのために学習に取り組むことが困難な児童生徒が、小・中学校在籍者の4.5%を占めていると報告されました。

行動面の困難さを抱える児童生徒が1.7%であることと比較すると、かなり多い割合となっていますが、注意欠陥／多動性障害（ADHD）のある児童生徒がとりざたされる中で、見過ごされがちになっている傾向は否定できないように思われます。

このような学習障害（LD）の子どもは、障害が見えにくいために「できるようになること」を期待されることが多いようです。しかし、思うように力を発揮することができないので、セルフエスティームを高めることができず、悩んでいることが多いものです。このような場合、二次的障害に発展してしまうケースもみられます。

## ● 専門家の助言を得ること

見えにくいものを理解するには、専門家の助言を得るのが一番の近道ですが、身近に得ることができない場合も多いものです。そのようなとき、LD・ADHD児等サポート会議は、解決策の糸口を得ることができる身近な機会です。また、自律教育相談（Q34参照）もきっかけをつかむことができます。

ゴウさんの場合は、このような機会を経た後に医療に結び付けることができ、その結果、もてる力を発揮することができるようになりました。一人で抱え込まず、いろいろな教職員や専門家に悩みを相談する姿勢が、解決の出発点になると言えるでしょう。

### LD・ADHD児等サポート会議、自律教育相談

「サポート会議」は、平成15年度から長野県教育委員会が始めた事例研究会で、16年度も県内4カ所で2回ずつ開催されました。自律教育相談は、教育事務所の自律教育担当教育支援主事等が相談に応じます。

詳細については、いずれも、自律教育課（TEL:026-235-7456）にお問い合わせください。